

豊かな未来を切り拓くために

大学開放実践センター 教授

馬場 祐次朗

生涯学習の必要性

最近、テレビCMの影響もあり、生涯学習という言葉の認知度もかなり上がってきました。また、実際に生涯学習に取り組む人も増えています。では、なぜ生涯にわたって学習が必要なのでしょう。自分の趣味・教養を高めるため、資格を取るため、就職のために必要だから、健康のためなど人それぞれにいろいろな動機があると思います。こうした学習は個人の自発的な意思に基づくものであり、自らを深めるための個人的な側面があります。一方で社会を支え発展させることができる国民一人一人の能力を向上させることとなり、ひいては我が国の社会全体の活性化や、持続的発展にもつながります。

化や、持続的発展にもつながります。

大学と生涯学習の関連

現在、我が国では、急激な社会の変化を背景として、国民一人一人が生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、またその成果を適切に生かすことができる「生涯学習社会」の実現が求められています。そのためには、大学を始め様々な機関で多様な学習機会が提供されなければなりません。大学は、本来高等教育機関の中核として高度で専門的な教育と研究を使命としています。今日では地域住民等の生涯学習を支援するため、

公開講座などを通して高質で体系的・継続的な学習機会を提供し、社会貢献の役割を果たすことも強く期待されているのです。

徳島大学の行っている生涯学習支援

徳島大学では、全国の国立大学の中でもいち早く、昭和61年4月に大学開放実践センターを設置し、地域社会における生涯学習の

拠点として様々な活動を展開しています。なかでも公開講座は、本学ならではの講座が毎年120程度開設され、2000名を超える方々が熱心に受講されており、全国的にも注目を集めています。また、徳島にあって5つの学部を持つ総合大学の特性を生かし、各学部等ではそれぞれの専門性や地域の特色を生かした公開講演会、フェスティバル等様々な大学開放事業にも積極的に取り組んでいます。

変化する社会を生き抜いていく力を育む

21世紀は、新しい知識・情報・技術こそが、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域で基盤となり重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会(knowledge-based society)」の時代であると言われています。そこでは、知識や技能はむろんのこと、自ら課題を見つけ考える力、身に付けた知識や技能を活用して複雑な課題を解決する力、他者との関係性を築く力など豊かな人間性を含めた「総合的な力」を身に付けることが必要です。この総合的な力は様々な学習や体験活動を重ねることによって育まれるのです。学生の皆さんは、大学の教育課程における学習はもうろんのこと、大学が提供する様々な生涯学習の機会を活用して、徳島の地から自分自身の豊かな未来を切り拓いていってください。

大学開放実践センターの公開講座

大学開放実践センター 教授

田中 俊夫

国内最大規模の公開講座開設

南常三島キャンパスにある大学開放実践センターでは生涯教育の実践の場として公開講座を開設しています。学生教育と違う点は「誰でも」「いつからでも」「いつまでも」「学びたい意思があれば学習ができる」という点です。

国立大学法人の中で当センターは、施設も教員組織も運営実績も最大規模のものとなっています。昭和61年の設立以来27年目を迎え、昨年度は122講座が開催され、2136人の受講者が集まりました。これは徳島大学の全学部・全大学院の入学定員を上回る数なのです。

公開講座は春期(5月より)、秋

期(10月より)を中心とし、夏期、冬期にも一部開催されています。総合大学の特色を生かし、人文系分野の講座から科学や医学など幅広い講座が開設されています。10年間で976人の新規受講者を集めた「ホノルルマラソンを走ろう」など全国的に評価の高い講座も多数あります。また、本学を退職された名誉教授が再びこのセンターで教壇に立つのも大きな楽しみの一つです。東國恵名誉教授の担当する「楽しみながら学ぶ書道」は在職時より20年以上続く長寿講座。新しい講座では川上博元副学長がLEDやマイコンをテーマにした公開講座を開設しました。市民の皆様が科学の面白さを学習できる内容になっています。

徳島大学と生涯教育

特集

学生教育と研究の多忙な日々を送りながらも徳大の現任教員も数多く公開講座を担当しています。変わり種ではこの春より開講されたドイツ語のヘルベルト准教授(大学院ソシオ・アート・アンド・サイ



生涯学習研究院が来春スタート!

また、来年度から、公開講座システムとしては設立以来最も大きな変革と言える「生涯学習研究院(仮称)」が開設されます。これは生涯学習や地域づくりの指導

エンス研究部)が担当する「健康法としての空手道入門」。オーストラリア時代から空手を学び本国でも道場を開いていたという先生とともに日本文化としての空手道を学ぶ機会になることでしょう。

者やボランティア・リーダーを育成することを目指しています。このコースに登録した受講者は自分の関心のある領域を中心に2年間、公開講座やゼミを一定時間数以上受講していただくことになります。知識を深め、実践や指導を通じて地域で輝く人材育成の場になればと期待しています。秋からは、この研究院の体験講座ともいえるブレ講座が開設されますので関心のある方は生涯学習係までお問い合わせください。

生涯学習係: cue7276@cue.tokushima-u.ac.jp



ホノルルマラソン



パソコン教室風景



四国遍路は世界遺産の登録を目指す四国固有の文化遺産、その遍路について学習し、実際に歩いて廻るのが公開講座「空海と歩く」です。住職の講話、遍路の歴史や民俗学について学ぶ座学とトレーニングや身体ケアについて学ぶ実技を組み合わせ、講座の仕上げとして歩き遍路実習を行います。1年に1県を回り、4年かけて1週間の歩き遍路実習を計6回実施して八十八カ所を結願します。

結願を終えて（阿部敬子）

期待と不安を胸に出発し、ひたすら歩いた1400km。当初歩くにあたって自分なりの思いはあった。仕事、子育て、家事と忙しく走り続けてきた人生、一度リセットして歩きながら自分を見つめなおしてみよう！と。そして結願。頑張った自分にすごく感動した。私はこの遍路の旅で少々のことでは挫けない強いものを貰った。

歩き遍路の良さは自分の身体と心に向かい合えること、そして地域の方々ともふれあえることでしょ。スローライフの素晴らしさを実感できます。また、2巡目は東京や滋賀など県外から6名が受講し、交流の輪も広がりました。8月には3巡目となる阿波遍路講座の受け付けが始まります。阿波遍路は「発心の道場」と呼ばれ、志

す歩いた1400km。当初歩くにあたって自分なりの思いはあった。仕事、子育て、家事と忙しく走り続けてきた人生、一度リセットして歩きながら自分を見つめなおしてみよう！と。そして結願。頑張った自分にすごく感動した。私はこの遍路の旅で少々のことでは挫けない強いものを貰った。

お大師様に見守られて（小林利子）

準備編から参加して4年、ずっと憧れていたお遍路も無事結願できました。初回の阿波遍路を終え東京に戻ってから暫くの間、何も手につかず夢の中を漂っているような不思議な感覚だったことを覚えていいます。88番大窪寺は独特の

準備編から参加して4年、ずっと憧れていたお遍路も無事結願できました。初回の阿波遍路を終え東京に戻ってから暫くの間、何も手につかず夢の中を漂っているような不思議な感覚だったことを覚えていいます。88番大窪寺は独特の

各局等の取り組み

徳島大学における 免許状更新講習の 開講

教職教育専門委員会委員長

桑原 恵

徳島大学では、教員免許状の更新のための講習（教員免許状更新講習）を毎年開講しています。講習は、選択領域とされている分野の講義について行われていますが、本学の先生方の専門を活かし、公教育の現場に最新の知識と情報を提供して、教育現場へ貢献することができるよう、できる限り広く科目の講習を開講するようにしています。

いくつかの例を挙げますと、現代的な諸問題への対応として、来るべき地震対策や環境問題に対応するための講義や、国際協力の現場で多くの実績を上げておられる講師による国際協力の基本など、実践を踏まえた講習が開講さ

雲囲気があり、胸が熱くなり心を落ち着かせるのに苦労しました。地図を見ながら1人で歩くことも大きな体験でした。また、無言行も印象に残っています。家族や友人を思いやり、自分の影に話しかけた優しい時間でした。不思議な感覚と幸せな時間を皆さんと共有できたことは私の大切な宝物となりました。

人気講座のご紹介② 「たのしい女声コーラス」 「たのしい男声コーラス」

「たのしい女声コーラス」は、1990年の開講から22年目を迎えました。『女声合唱団「櫻」』として1996年に全日本合唱連盟に加盟、その年の「第19回全日本おかあさんコーラス大会」から参加し、以来毎年参加しています。これまで全国大会には、2000年（香川）、2005年（長崎）、2010年（長野県）の3回、四国代表として出場しました。また、県合唱祭には2005年から毎年参加しています。メンバーは現在65名、創立時から継続されている方もいらっしやいます。

一方、「たのしい男声コーラス」は2007年5月に開講、その年から「あわコリアーズ」としてつなぐ立場から、このような免許状更新講習を通して、少しでも多く、本学の先生方の専門を地域の教育現場へ活かしていただくことができるよう、毎年講習の内容に検討を加え、地域貢献の成果がより充実したものとなるように努力しています。

教職教育専門委員会は、全学をつなぐ立場から、このような免許状更新講習を通して、少しでも多く、本学の先生方の専門を地域の教育現場へ活かしていただくことができるよう、毎年講習の内容に検討を加え、地域貢献の成果がより充実したものとなるように努力しています。

教職教育専門委員会は、全学をつなぐ立場から、このような免許状更新講習を通して、少しでも多く、本学の先生方の専門を地域の教育現場へ活かしていただくことができるよう、毎年講習の内容に検討を加え、地域貢献の成果がより充実したものとなるように努力しています。

徳島大学総合科学部 モラエス研究会

大学院ソシオ・アンド・サイエンス研究部
基礎科学研究部門 人文科学分野 教授

宮崎 隆義

発足と活動

平成22年7月に、大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部の教員である佐藤征弥准教授（植物生理学）、境泉洋准教授（臨床心理学）と三人で研究会を立ち上

県合唱祭に参加。両合唱団とも合唱連盟の行事、国民文化祭関連行事に参加しています。特に男性陣はほぼ全員が参加していて、諸行事にはなくてはならない貴重な存在になっています。

両合唱団の自主公演として去る4月15日に徳島市立文化センターで第4回ジョイント・コンサートを開催しました。合唱活動は、多くの詩人、作曲家の作品に触れ、英語、ドイツ語、イタリア語、フランス語、スペイン語、ラテン語などにも接して、世界の歴史、民俗、宗教、文化を垣間見ることができます。両講座ともに平均年齢は60歳を超えていますが、和気藹藹、創造する喜びと感動を享受しています。（講師 吉森章夫）

たのしい男声コーラスを受講して （船越 一人）

講座生になって5年が経過した。学習した歌も百曲を超える。週1回の講座は今では自分の生活の中で規則正しいリズムを刻んでいる。最近では日本民謡から唱歌、外国の歌曲や民謡など徐々に増え、難易度も増してきた。

講座では楽譜が読めないこと、おかしな声のことなどなんのその仲間との交流も愉快で指導を受ける吉森、大井両先生の人柄も魅力

げました。これは三人で担当していた大学院の授業「プロジェクト研究Ⅰ」からアイデアとして生まれたものです。例会として読書会を開き、モラエスの著作を読んでいます。また学内で講演会を開いたり、徳島県立文学書道館にお願いして貴重資料の見学会を行ったり、さらにはモラエスゆかりの神戸三宮周辺で調査資料見学ツアーも行いました。

地域の市民と共に学ぶ

教員による講座提供や講演会とは少し性格の違う、教員と市民とが共に学びながら地元の文化的なものを継承してゆくこうした研究会方式によっても、開かれた大学として地域への貢献や地域との連携が可能ではと思われま

ポルトガル人モラエスがいかに日本をそして徳島を理解してヨーロッパに紹介したかを検証するにつけ多くのものが見えてきます。モラエスの目を通して徳島の再発見ができるのかもしれない。



的な時間空間だ。歌唱法などの技術面だけでなく各国の音楽文化や歴史のエピソードなどをユーモアある阿波弁で語られる講話は「吉森語録」としてあわコリアーズ仲間が記録している。

定年後17年の受講が経過 （竹内菊世）

長年続いた理由は、歌が好き、コーラスが好きもあるが、一番の魅力は歯が立たないと思える難曲を地道にこなしていく過程にある。この年齢でラテン語、イタリア語、フランス語にまで挑戦した。審査も受けずに集まる60人に余る中高老年の受講生を相手に、吉森先生は実に丁寧な気長く、そして厳しく妥協しない指導をしてくださる。その姿勢に魅せられた女性たち。時々立つ舞台はまさに我々の晴れ舞台であり、生きがいともなっている。



継承と啓蒙、そして発展へ

モラエスのことは、総領事であつた神戸でも忘れられかけておられますが、徳島でもその傾向は否めません。この研究会がきっかけで、モラエスの遠縁にあたるベルギーの研究者ともつながりができ、国際的な研究拠点になる可能性も見えています。また、神戸外国人居留地研究会とも連携ができました。開かれた大学として、教員と市民、そして学生とが共に学びながら、モラエスを始めとする徳島の文化を見直すことができると

徳島大学病院 キャリア形成支援 センター―医師部門 ―医師のキャリア形成を 強みにバックアップ―

徳島大学病院
キャリア形成支援センター長

赤池 雅史

本センターは、すべての医療スタッフと事務職員の生涯研修の連携を行い、それぞれの専門性の向上と同時にチーム医療能力の向上を図ることを目指しています。その中で医師部門は、医師の初期研修を担当する卒後臨床研修センターと連携して、各診療科が行う卒後3年目以降の医師の専門研修とキャリア形成の支援に取り組んでいます。各診療科では、その関連医療機関とローテーション研修を行うことで、地域医療から高度先進医療まで幅広い診療経験を積むことができる研修プログラムを提供しています。また、医師として不可欠な研究・教育能力を身につけるために、同時に大学院に進学することも可能です。当部門では、文部科学省補助事業である

<http://www.medical-bridge.jp/>



日本医科大学付属病院集中治療部への研修派遣

「四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成」をもとに、各診療科の研修プログラムを医学生や研修医にわかりやすく呈示するとともに、神戸大学、日本医科大学等の他大学への短期研修派遣や臨床技能講習会の開催支援も行っています。この取り組みは、卒前教育担当の医学部教育支援センターや、多職種連携教育、スキルス・ラボ（臨床技能訓練施設）でのシミュレーション教育ならびに大学院教育支援担当の大学院ヘルスバイオサイエンス研究部医療教育開発センターと密接に連携して行われています。優れた医師であるためには、一生の研鑽が必要です。当部門は、卒前から卒後にわたる医師の一貫した生涯教育をバックアップしています。

地域医療を担う

薬剤師の

生涯学習支援

滝口 祥令

薬学部薬学科長

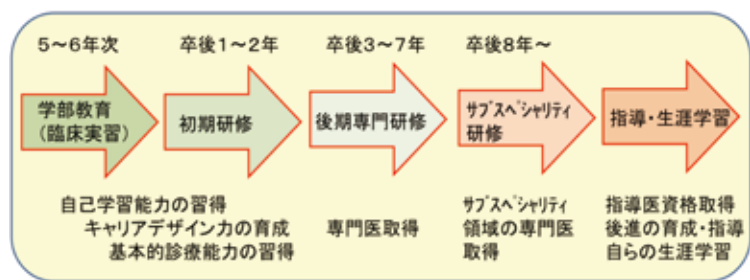
医療の高度・専門化や医薬分業の進展に伴い、薬の専門家として薬剤師に求められる職能は多様化し、その役割・責任が増大しています。そのため、薬剤師としての責務を担うには、様々な変化に対応できる資質及び専門性の向上に向けた継続した学習が不可欠です。そこで薬学部では、地域医療を担う薬剤師の生涯学習支援として、卒後教育公開講座と臨床薬剤師交流ネットワークの2つのリカレント教育事業を実施しています。卒後教育公開講座は平成9年から毎年2―3回開催し、昨年までに33回を数えています。医薬、医療の分野で活躍している専門家や大学教員の講演による最新の情報・話題提供に加えて、第21回からは隔回で、多くの薬剤師にも日々の業務に関する研究発表を行っていただき、より良い医療に貢献する薬剤師業務について参加者が一緒

に考える取り組みを行っています。一方、地域薬剤師との身近な勉強会として平成17年から始めた臨床薬剤師交流ネットワークでは、スキル向上を目指して熱心な情報交換が行われており、平日の夜間にもかかわらず、すでに41回開催さ



心臓血管外科手術のシミュレーショントレーニング

大学病院によるキャリア形成支援



生涯教育の

重要性とその限界

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
保健科学部門 口腔保健学講座
地域医療福祉学分野 教授

白山 靖彦

よく「昔取った杵柄」と言いますが、これは昔に習得した知識や技術が時間を経過しても使える、という意味の格言です。しかし、歯科医療の世界では、すべての場面にあてはまるものではありません。たとえば、以前ならば虫歯は削る治療がほとんどでしたが、今ではレーザー治療などの選択肢もありますし、義歯に関してもインプラント治療など多様な治療法が開発されています。そういった場合「昔取った杵柄」ではなく、「新たな杵柄」をもつ努力が必要となるわけです。学会と呼ばれるアカデミックな世界では、生涯教育の観点から、ポイント制研修制度や認定専門医（歯科医）制度などがあり、大学で学んだ初期の教育内容をよりバージョンアップする場として位置づけられています。ここでは、社会によって提供される知識を学習者自身が直接吸収する

スタイルが求められる、ということになります。しかし、こうした生涯教育制度の欠点は、自らが進んで学ぶことが必要とされるため、本人のモチベーションの継続性やその時代の社会環境によって大きく左右されます。ですから、そこに生涯教育のむずかしさがあり、制度としての限界があるのです。したがって生涯教育は、社会制度として機能させることよりも、個々の学習者とその重要性を認識する学習が求められています。今後はそうした重要性を私自身も強く認識し、主体的に学習することを動機づける教育に配慮して行きたいと考えています。



携が進むなど内容がさらに充実してきております。



第15回 科学体験フェスティバル in 徳島開会式



エンジニアリングフェスティバル2011会場風景

徳島大学工学部に おける理科教育 から研究シーズ 紹介まで

大学院シオテクノサイエンス研究部長

大西 徳生

徳島大学工学部では、子供の「理科離れ」「工学離れ」対策の一環として、阿波銀行、四国電力の共催で、理科の面白さ、科学の面白さ、工学の面白さを体得できる場を提供することを目的として、毎年「科学体験フェスティバル in 徳

島」を開催しております。最近では、徳島県教育委員会はじめ16機関からの後援と企業5社からの協賛で開催する地域における夏の一大イベントとして定着しており、全国でも例を見ない毎年8000名を超える参加者数を獲得開催しております。昨年で15回を迎えましたが、これまでの長期継続開催をもとに本イベント実施に対する本学学生へのアンケート結果をまとめた「科学体験フェスティバル in 徳島による理系進学 の普及啓発」が平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞しました。なお、これまでの小中学生対象の理科体験ブースに加えて、中学生以上を対象にした工学体験ブースのフロアを設けた結果、大変好評で参加者層の拡大につなげることができました。また、大学を志願する高校生を対象とした「工学体験大学講座」もオーブンキャンパスとジョイントして開催しており、非常に熱のこもったイベントとなっており、非常に好評です。さらに、一般企業人、社会人に対して大学における多数の研究成果を広く地域・社会に公開し、技術移転、製品開発等を通じて社会に還元することを目指した「エンジニアリングフェスティバル」も、各教育研究機関との連